

千葉県袖ヶ浦市

上大城遺跡（3）

—資材置場造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2016

組山共友

袖ヶ浦市教育委員会

千葉県袖ヶ浦市

かみおおしろ

上大城遺跡（3）

—資材置場造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2016

組山共友

袖ヶ浦市教育委員会

序 文

袖ヶ浦市は、千葉県の東京湾沿岸部のほぼ中央に位置し、南部の小櫃川によって形成された平野と、北部の畑や住宅地として活用されている台地、海岸部の工業地帯から構成されています。

北部の台地は袖ヶ浦台地と呼ばれ、小河川が入り組み、海岸線に近いという立地的な利点から、何千、何万年といった昔より先人が生活していた痕跡が多く見つかっています。現在でも充実した交通網を生かし、都心に近いという立地的な利点から多くの人々が生活をし、住宅街の整備や袖ヶ浦椎の森工業団地2期地区工事などの開発が進むなど、日々まちの様相は変化しています。これらの開発に伴い消滅してしまう遺跡に関しては、適切に記録をすることで、先人が残した生活の痕跡を責任をもって後世に伝えていかなければなりません。

この度は、資材置場造成に伴い、袖ヶ浦市代宿に所在する上大城遺跡の発掘調査を行い、報告書を刊行することとなりました。上大城遺跡は、過去の調査において旧石器時代から奈良・平安時代にかけての長期に渡る生活の痕跡が見つかっています。縄文時代においては袖ヶ浦台地上に数多くの遺跡が分布していることがわかっており、今回の調査においても縄文時代早期の炉穴が発見され、当時の様相を知る上での様々な成果を得ることができました。

本書が学術資料としてはもとより、文化財保護とその重要性、並びに郷土の歴史を知るための教育資料として幅広く活用され、袖ヶ浦の教育全般にお役立ちできれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、ご指導・ご協力をいただきました組山共友、千葉県教育庁教育振興部文化財課、並びに関係者の皆様に心から厚くお礼申し上げます。

平成 28 年 2 月

袖ヶ浦市教育委員会
教育長 川島 悟

例 言

- 1 本書は、千葉県袖ケ浦市久保田代宿入会地 11 番 7 に所在する上大城遺跡（遺跡コード：S G 042）第 3 次調査の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、組山共友からの依頼による資材置場造成に先立つ調査として行われ、千葉県教育委員会の指導のもと、袖ケ浦市教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査面積と発掘調査・整理作業の期間及び担当者は、以下のとおりである。
〔調査面積〕 330 m²
〔発掘調査期間〕 平成 26 年 12 月 2 日～同年 12 月 10 日
〔担当者〕 諸墨 知義
〔整理作業期間〕 平成 27 年 9 月 29 日～平成 28 年 1 月 28 日
〔担当者〕 大河原 務
- 4 本書の執筆は、大河原 務が担当した。

凡 例

- 1 基準点測量は世界測地系を用いた。方位は座標北を表している。
- 2 本書で使用した地形図は、以下のとおりである。
第 1 図 国土地理院発行 25,000 分の 1 地形図 「姉崎」
第 2 図 袖ケ浦市発行 2,500 分の 1 地形図 「No.10」
- 3 図の縮尺・凡例は遺構・遺物ともに各図に明記した。
- 4 土器実測図の断面に付したドット（■）は胎土に繊維を含むことを表している。
- 5 本書で使用した遺構の「S K」は土坑を示し、遺構図中にある「K」は攪乱を示している。

目 次

序文

例言

I. 序章	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査組織	1
3. 遺跡の立地と周辺の遺跡	1
4. 調査及び整理作業の方法	2
II. 検出された遺構と遺物	5
1. 調査概要	5
2. 炉穴	5
3. 土坑	6
III. 総括	6

挿 図 目 次

第1図 上大城遺跡周辺遺跡分布図	第4図 炉穴実測図
第2図 上大城遺跡調査区及びグリッド配置図	第5図 炉穴出土遺物実測図
第3図 上大城遺跡（3）全体図	第6図 土坑及び遺物実測図

表 目 次

表1 出土遺物観察表

図 版 目 次

図版1 調査区完掘全景・検出遺構
図版2 出土土器

I. 序章

1. 調査に至る経緯

袖ヶ浦市久保田代宿入会地 11 番 7 他における資材置場造成に伴い、平成 26 年 7 月 15 日付けで埋蔵文化財の所在についての照会があり、照会地は周知の遺跡である上大城遺跡内にあたる旨を回答した。

事業の実施に先立ち、現地踏査及び試掘調査を実施し、その結果を受けて事業者と協議を行った結果、地区内保存の措置を講ずるとの結論に達したことから、平成 26 年 9 月 9 日付けで保存協定を締結した。

その後、事業の計画変更に伴い、保存協定の範囲内において包蔵地掘削の必要が生じたため、再度事業者との協議を行った結果、記録保存の措置を講ずるとの結論に達し、事業地内の 330 m²について確認・本調査を実施することとなった。

発掘調査及び整理事業は袖ヶ浦市教育委員会が行った。

2. 調査組織

袖ヶ浦市教育委員会

平成 26 年度（発掘調査）

教育長	川島 悟
教育部長	蔭山 弘
教育部次長	鈴木 和博
教育部参事兼生涯学習課長	井口 崇
副課長	西原 崇浩
副主幹	諸墨 知義（担当者）
副主査	田中 大介
副主査	前田 雅之

平成 27 年度（整理事業）

教育長	川島 悟
教育部長	鈴木 和博
教育部次長	森田 泰弘
教育部参事兼生涯学習課長	原田 光雄
副課長	西原 崇浩
副主査	田中 大介
副主査	前田 雅之
主任主事	大河原 務（担当者）

3. 遺跡の立地と周辺の遺跡

立地 袖ヶ浦市は千葉県の東京湾沿岸のほぼ中央にあり、市内北部の台地は袖ヶ浦台地と呼ばれ、多くの遺跡が分布する。袖ヶ浦台地は、北側から笠上川、浜宿川、久保田川、蔵波川、境川の 5 本の小河川が台地を浸食しており、本遺跡は浜宿川と久保田川に挟まれた標高 46 m 前後の尾根上の台地に立地している。

周辺の遺跡 周辺の遺跡については、すでに刊行されている『上大城遺跡』において記載されている。本調査において縄文時代早期の遺構が検出されたことから、同時期の周辺遺跡について簡単に概説する。

袖ヶ浦市内において縄文時代早期の遺構が検出されている遺跡の数は多く、遺構が検出されていないが、遺物は出土しているという遺跡も含めるとかなりの数に上る。そしてその遺跡の多くは本遺跡同様に袖ヶ浦台地上に分布している。久保田川流域には、本遺跡や、本遺跡と同時期である子母口式期の炉穴が検出されている八重門田遺跡、鵜ガ島台式期の竪穴住居跡が検出された豆作台遺跡をはじめとして、美生遺跡群、堂庭山 B 遺跡、子者清水遺跡などの条痕文期の遺跡が展開している。また、蔵波川流域には子母口式期から茅山式期にかけての炉穴が 262 基も検出された中六遺跡、境川流域には鵜ガ島台式期から茅山式期の炉穴群が検出された寒沢遺跡などが立地している。

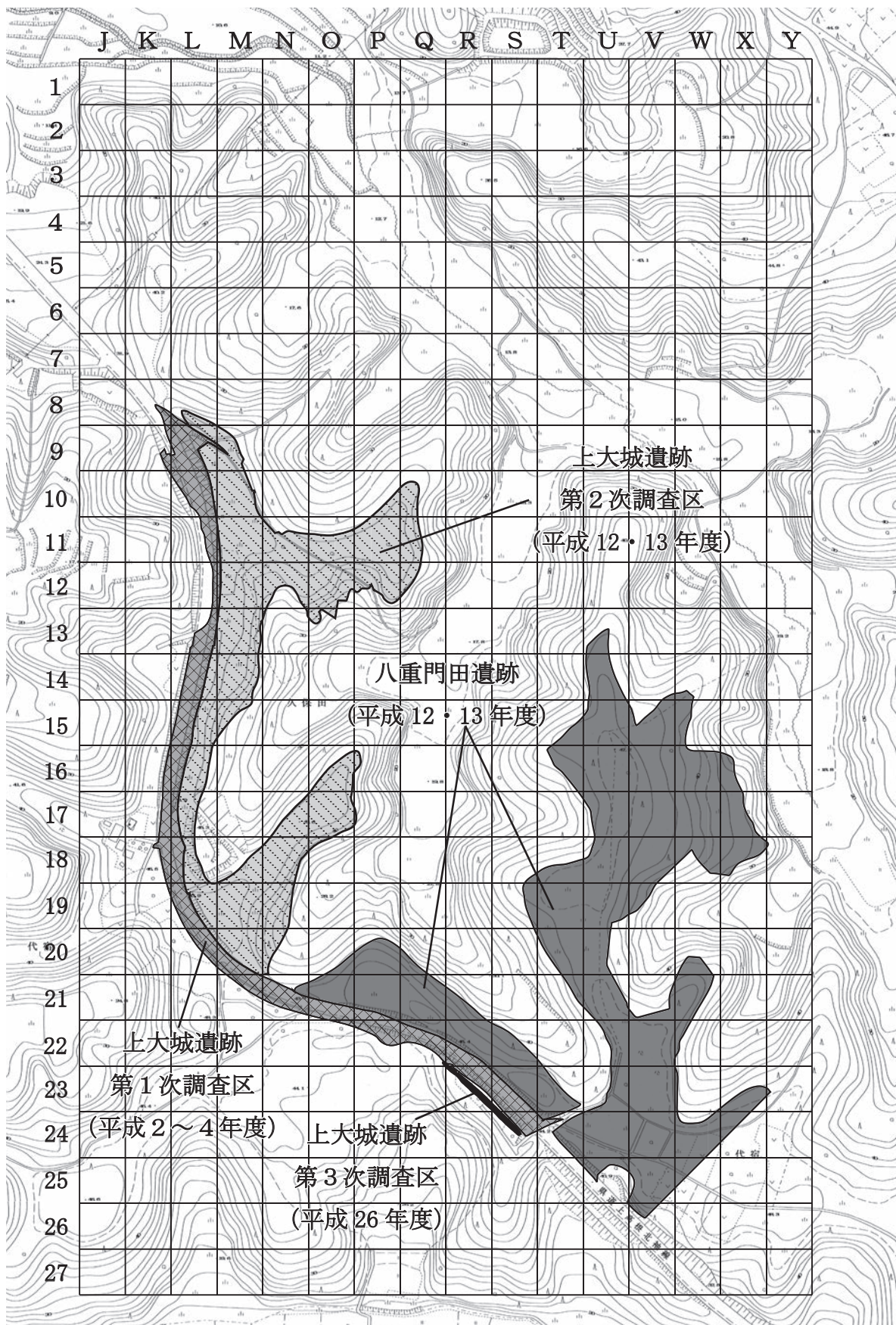
4. 調査及び整理作業の方法

今回の調査区が上大城遺跡第1次・第2次調査区に隣接していることから、過去の調査で設定されたグリッドを踏襲した。40 m×40 mの大グリッドは東西方向をアルファベットで、南北方向を算用数字を用いて呼称する。また大グリッド内を20 m×20 mの中グリッドで四分割し、北西、北東、南西、南東にaからdを付し、その中をさらに2 m×2 mの小グリッドで100分割した。小グリッドは北西隅から00、01、02・・・北東隅に09、南西隅に90、南東隅に99と番号を付した。ただし、過去の調査は国家公共座標第IX系に基づき起点が設置されているが、世界測地系に変換し、X=-60454.2761、Y=16606.5078を起点とした。

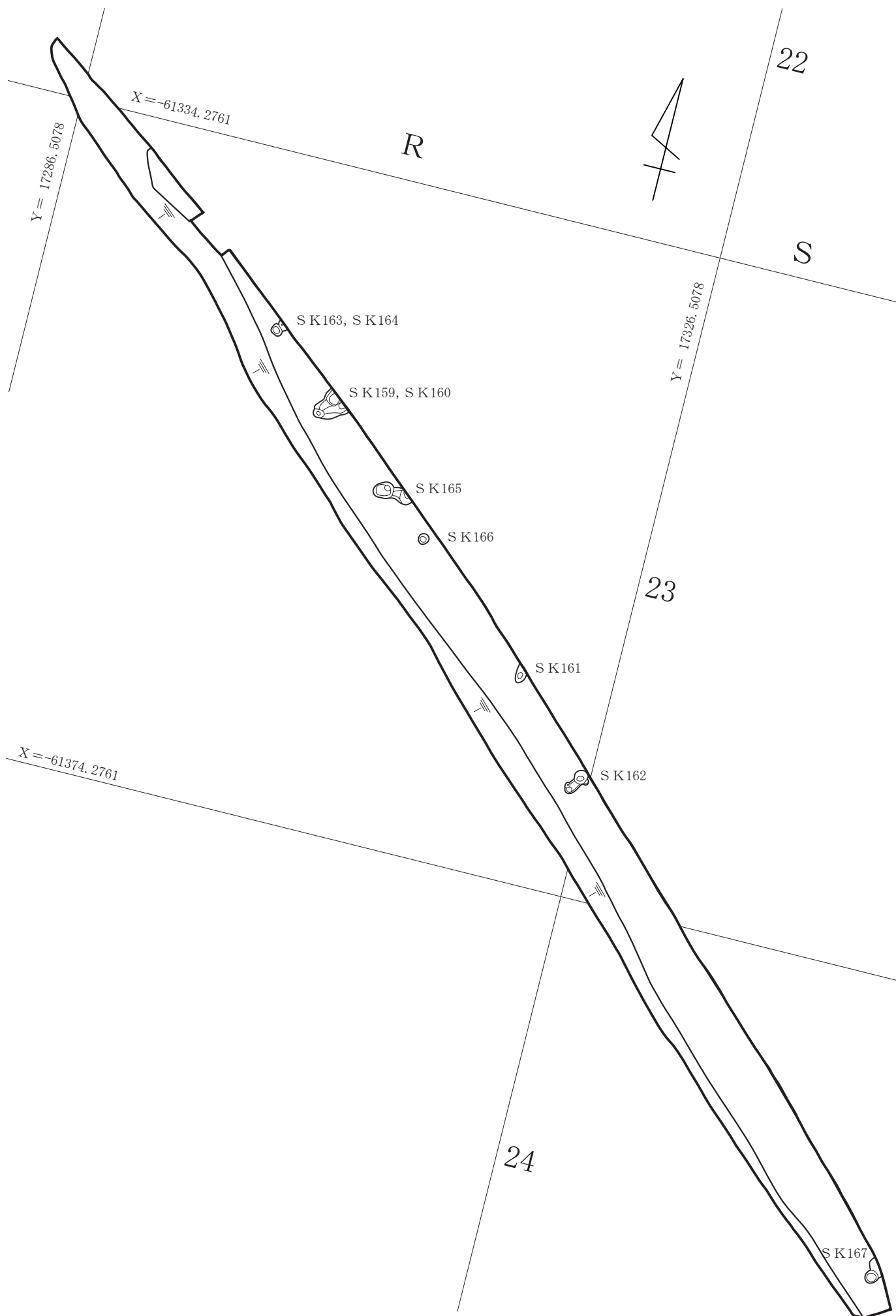
表土除去はバックホウにより行った。遺構の記録は、平板測量により平面図を作成し、縮尺は20分の1を基本とした。遺構番号は第2次調査から連続する番号を採用し、3桁の数字で表した。発掘調査の写真撮影は、中型カメラをメインカメラとし、フィルムは白黒6×7判を使用した。サブカメラとして35mm小型カメラを使用し、フィルムは白黒とカラーリバーサルを使用した。報告書に掲載する遺物の撮影は、デジタルカメラを使用した。



第1図 上大城遺跡周辺遺跡分布図 (S=1/25,000)



第2図 上大城遺跡調査区及びグリッド配置図 (S = 1 / 5,000)



第3図 上大城遺跡(3)全体図(S=1/300)

Ⅱ．検出された遺構と遺物

1．調査概要

上大城遺跡第3次調査区からは縄文時代早期の炉穴4基、土坑5基が検出された。本調査区北側の上大城遺跡第1次調査、八重門田遺跡からは弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡が検出されており、本調査区においても集落の広がりが予想されたが、同時期の遺構は検出されなかった。なお、調査区内南側は後世の掘削により削平されていた。

2．炉穴

S K 159（第4・5図、図版1・2）

遺構 R-23a-79 グリッドを中心に位置する。S K 160 と重複し、本遺構の方が新しい。平面形は長楕円形を呈し、燃焼部付近が幅広となる。遺構北部は調査範囲外に延び、遺構東部はS K 160 と重複しているため、長軸・短軸は不明である。確認面からの深さは66 cmである。足場は平坦であり、火床にかけて傾斜している。焼土は火床上に20 cm堆積し、焼土上の堆積土より遺物がまとまって出土している。時期は出土遺物から縄文時代早期と思われる。

遺物 縄文土器が1,026.53 g出土した。1は緩やかに外反する口縁部であり、内外面共に擦痕を施す。2は口縁部下及び口唇部に角状工具による刺突文を施す。6は内外面に条痕文を施し、口縁部下に斜位の貝殻腹縁文を施す。明確な条痕文を持つものは6だけであり、繊維が混入し、内外面に擦痕を施すだけのものがほとんどである。おおむね子母口式土器と考える。

S K 160（第4図、図版1）

遺構 R-23a-79 グリッドを中心に位置する。S K 159 と重複し、本遺構の方が古い。平面形は長楕円形を呈する。遺構北部は調査範囲外に延び、遺構西部はS K 159 と重複しているため、長軸・短軸は不明である。確認面からの深さは35 cmである。明確な火床や焼土は確認できなかったが、S K 159 と同軸で並列し、若干ではあるが炭化物が検出されていることから炉穴と判断した。

遺物 なし。

S K 161（第4図、図版1）

遺構 R-23d-37 グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈する。遺構北部が調査区範囲外に延びているため長軸は不明、短軸は64 cm、確認面からの深さは27 cmである。焼土は火床上に16 cm堆積している。遺構北部に足場を有する可能性もあるが調査範囲外のため不明である。

遺物 なし。

S K 162（第4図、図版1）

遺構 R-23d-69 グリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、燃焼部付近が幅広となる。長軸は172 cm、短軸は78 cm、確認面からの深さは24 cmである。足場は平坦であり、火床にかけて傾斜している。焼土は火床上に9 cm堆積している。

遺物 縄文土器が2.68 g出土した。内外面共に無文である。小片のため、図化はしていない。

3. 土坑

S K 163 (第6図、図版1)

遺構 R -23a-57 グリッドに位置する。S K 164 と重複し、本遺構の方が古い。平面形は楕円形を呈する。長軸は 72 cm、遺構北部が S K 164 と重複しているため、短軸は不明である。確認面からの深さ 22 cm である。

遺物 なし。

S K 164 (第6図、図版1)

遺構 R -23a-57 グリッドに位置する。S K 163 と重複し、本遺構の方が新しい。平面形は楕円形を呈する。長軸は 68 cm、遺構南部が S K 163 と重複しているため、短軸は不明である。確認面からの深さ 47 cm である。

遺物 なし。

S K 165 (第6図、図版1)

遺構 R -23b-91、92 グリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈する。長軸は 128 cm、短軸は 100 cm、確認面からの深さ 20 cm である。

遺物 縄文土器が 3.88 g 出土した。繊維を含む無文土器である。小片のため、図化はしていない。

S K 166 (第6図、図版1)

遺構 R -23d-03 グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。直径 66 cm、確認面からの深さは 47 cm である。

遺物 なし。

S K 167 (第6図、図版1・2)

遺構 S -24b-81 グリッドを中心に位置する。平面形は楕円形を呈する。長軸は 81 cm、短軸は 78 cm、確認面からの深さ 26 cm である。

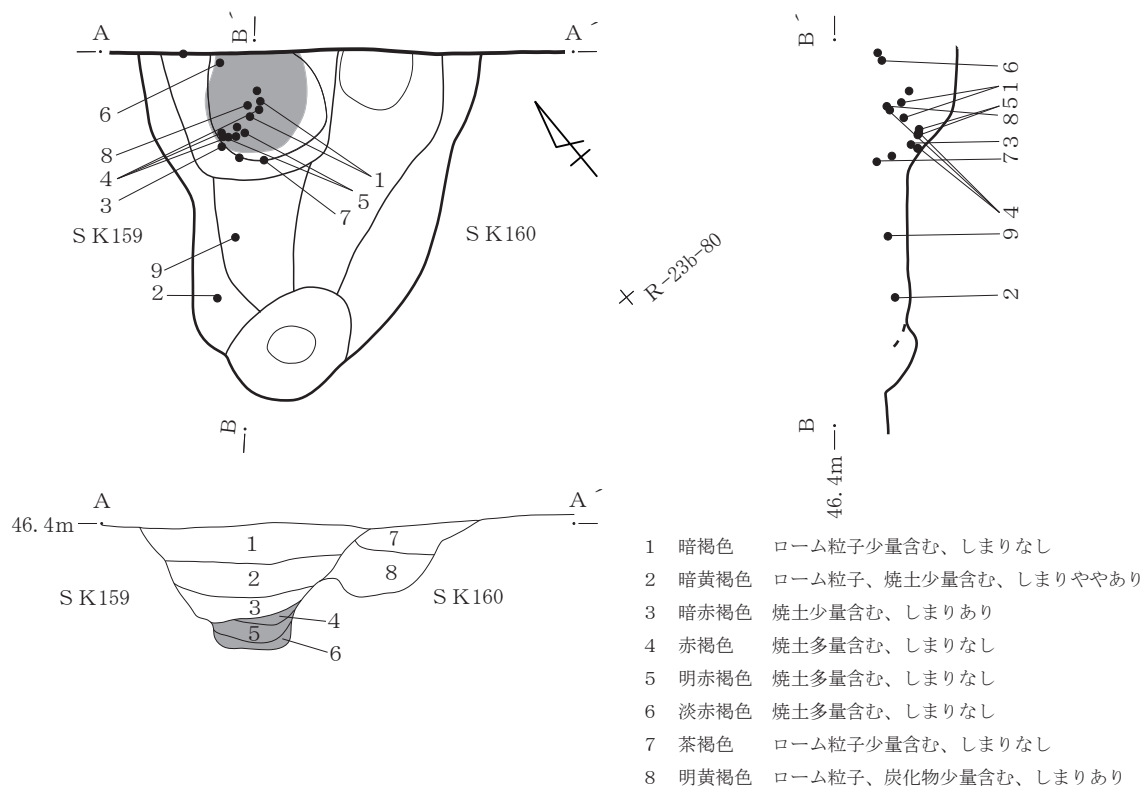
遺物 縄文土器が 13.98 g 出土した。口縁部であり、緩やかに外反する。繊維が混入し、外面には横方向の擦痕を施す。子母口式土器と考える。

Ⅲ. 総括

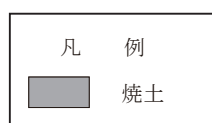
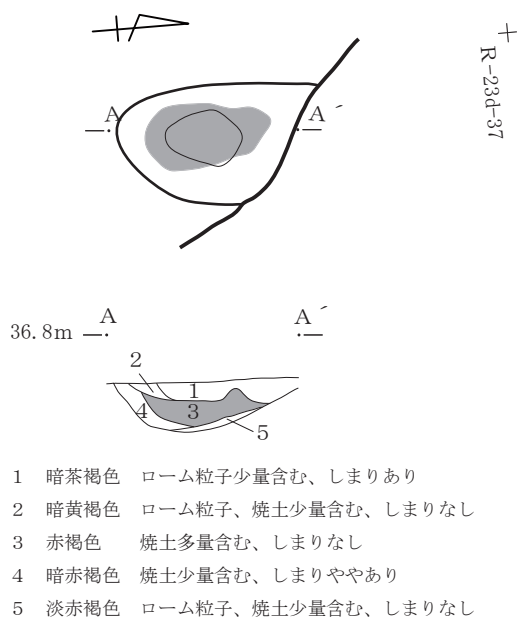
今回の調査では縄文時代早期子母口式期の炉穴 4 基が検出された。本調査区北側にあたる上大城遺跡第 1 次調査においても子母口式期の炉穴が検出されており、同一集団のものと思われる。隣接する八重門田遺跡からも子母口式期の炉穴が検出されており、周辺には同時期の小規模な遺跡が点在している。南西に位置する中六遺跡のように大規模な遺跡も存在するが、竪穴住居跡は検出されていない。上用瀬遺跡や、鶯ガ島台式期のものだと豆作台遺跡から検出されているものがあるが、遺跡数に対する竪穴住居跡の検出例が少ない。このことから、当時の生活が定住ではなく、遊動性のある生活が一般的であり、拠点地となる大規模な遺跡の周辺に小規模な遺跡が点在していたことが想定でき、本遺跡はその点在する小規模な遺跡のひとつだったのではないだろうか。また、八重門田遺跡発掘調査報告書でも述べられているが、上大城遺跡第 1 次調査、八重門田遺跡からは礫がほとんど検出されておらず、本調査においても検出されなかった。上総地域の東京湾沿岸における同時期の遺跡からは、大量の礫が検出される例が多く、同台地上の豆作台遺跡や美生遺跡群からも礫が検出されており、中六遺跡においては炉穴分布と重なるように大量の礫が出土している。炉穴と礫の関係は今後とも周辺の遺跡に注視しながら検討をする必要がある。

本遺跡は南北に延びる台地上に位置し、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落が、北側に位置する浜宿川水系に属するものと、南側に位置する久保田川水系に属するものに分かれている。本調査区北側に久保田川水系の集落が広がっており、本調査区においても同集落の広がりが予想されたが、同時期の遺構は確認されず、遺物に関しても破片のみであったことから、久保田川水系集落の範囲を絞ることができた。

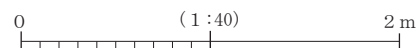
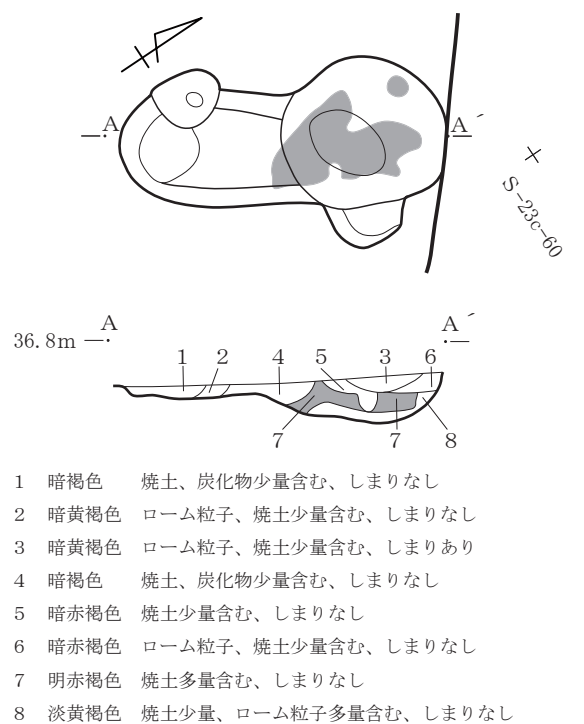
S K159, S K160



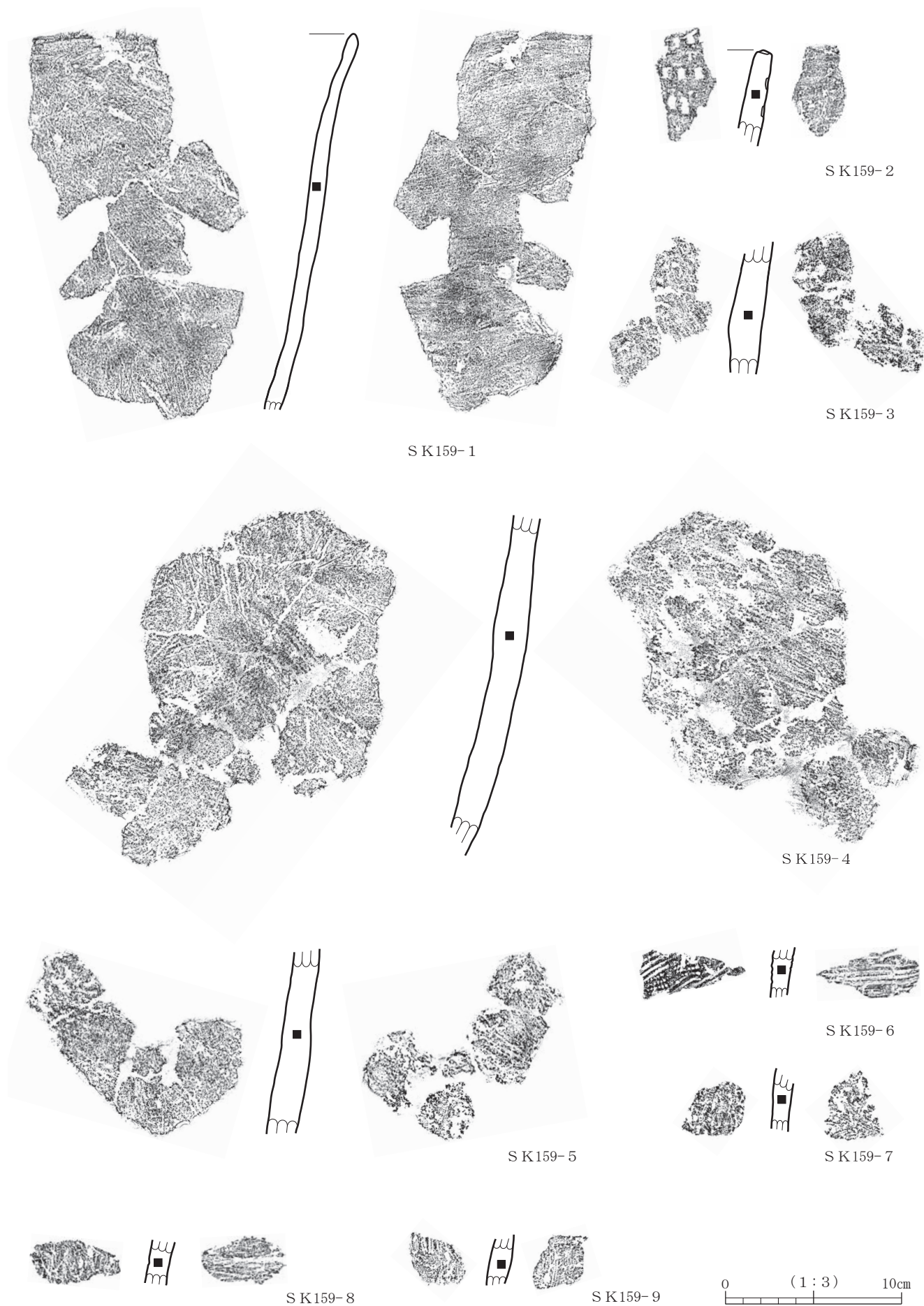
S K161



S K162

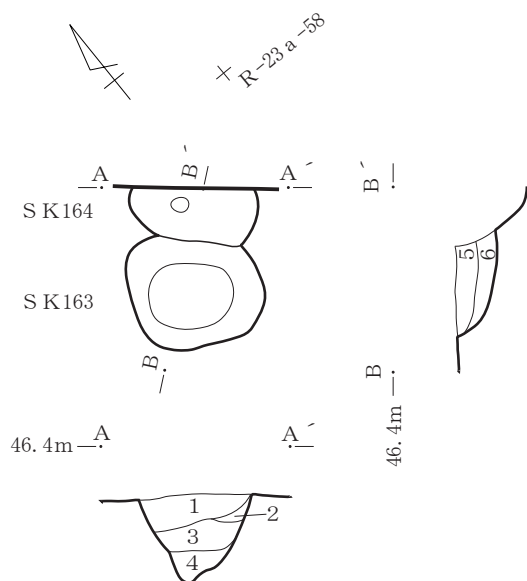


第4図 炉穴実測図



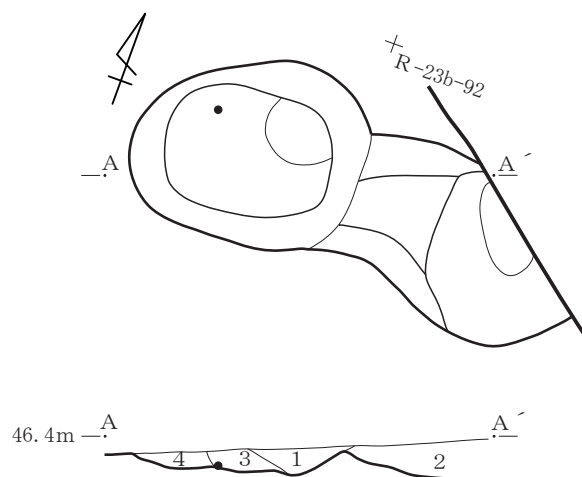
第5図 炉穴出土遺物実測図

S K163, S K164



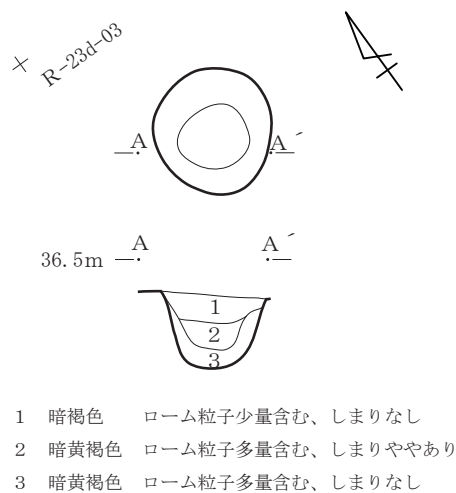
- 1 暗黄褐色 ローム粒子少量含む、しまりあり
- 2 茶褐色 ローム粒子多量含む、しまりなし
- 3 暗黄褐色 ローム粒子多量含む、しまりややあり
- 4 黄褐色 ローム粒子多量含む、しまりなし
- 5 暗褐色 ローム粒子少量含む、しまりなし
- 6 茶褐色 ローム粒子少量含む、しまりあり

S K165



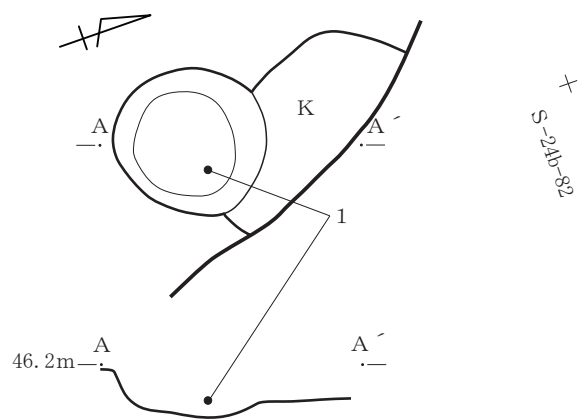
- 1 暗茶褐色 焼土、ローム粒子少量含む、しまりあり
- 2 暗黄褐色 ローム粒子多量含む、しまりなし
- 3 黄褐色 ローム粒子多量含む、しまりあり
- 4 明茶褐色 ローム粒子多量含む、しまりややあり

S K166



- 1 暗褐色 ローム粒子少量含む、しまりなし
- 2 暗黄褐色 ローム粒子多量含む、しまりややあり
- 3 暗黄褐色 ローム粒子多量含む、しまりなし

S K167



SK167-1



一括-1

0 (1:3) 10cm

(遺物)

0 (1:40) 2m

(遺構)

第6図 土坑及び遺物実測図

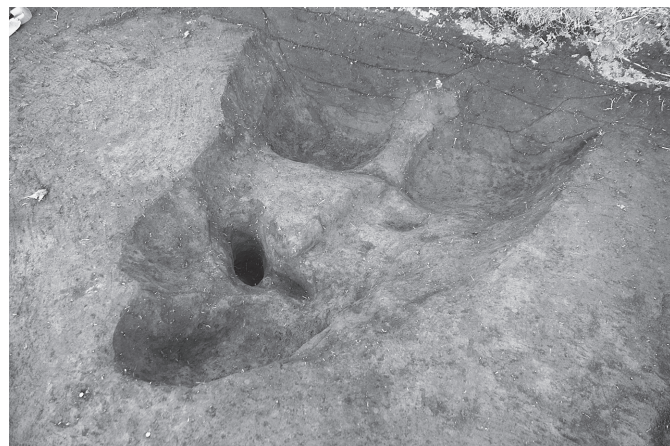
表1 出土遺物観察表

出土位置	遺物番号	器種	残存	色調	胎土	整形・文様等	時期
S K 1 5 9	1	深鉢	口縁部	内面：1 0 Y R 6 / 4 にぶい黄橙 外面：1 0 Y R 6 / 4 にぶい黄橙	繊維混入、白色粒子少量、黒色粒子・極小礫微量	緩やかな外反する口縁部。波状口縁？ 内面は横方向の擦痕。 外面は斜め方向の擦痕。	縄文時代早期
	2	深鉢	口縁部	内面：5 Y R 5 / 6 明赤褐 外面：5 Y R 4 / 8 赤褐	繊維混入、白色粒子やや多い、黒色粒子少量	内面は横方向の擦痕。 外面は角状工具による刺突文が2段施され、口唇部にも同一工具による刺突文が施される。	縄文時代早期
	3	深鉢	胴部	内面：1 0 Y R 3 / 1 黒褐 外面：7 . 5 Y R 5 / 4 にぶい褐	繊維混入、白色粒子少量、微小礫微量	内面は縦方向の擦痕。 外面は横方向の擦痕。	縄文時代早期
	4	深鉢	胴部	内面：1 0 Y R 4 / 3 にぶい黄褐 外面：7 . 5 Y R 4 / 6 橙	繊維混入、白色粒子やや多い、微小礫微量	内面は横方向の擦痕。 外面は斜め方向の擦痕。	縄文時代早期
	5	深鉢	胴部	内面：7 . 5 Y R 6 / 6 橙 外面：5 Y R 4 / 6 赤褐	繊維混入、白色粒子やや多い、黒色粒子・微小礫少量	内面は横方向の擦痕。 外面は斜め方向の擦痕。	縄文時代早期
	6	深鉢	胴部	内面：1 0 Y R 7 / 6 明黄褐 外面：1 0 Y R 8 / 4 浅黄褐	繊維混入、白色粒子微量	内面は横方向の条痕文。 外面は横方向の条痕文及び貝殻腹縁文。	縄文時代早期
	7	深鉢	胴部	内面：1 0 Y R 6 / 4 にぶい黄橙 外面：1 0 Y R 7 / 4 にぶい黄橙	繊維混入、白色粒子少量	内面は斜め方向の擦痕。 外面は横方向の擦痕。	縄文時代早期
	8	深鉢	胴部	内面：1 0 Y R 8 / 4 浅黄橙 外面：1 0 Y R 5 / 3 にぶい黄褐	繊維混入、白色粒子・微小礫微量	内面は横方向の擦痕。 外面は縦方向の擦痕。	縄文時代早期
	9	深鉢	胴部	内面：1 0 Y R 7 / 4 にぶい黄橙 外面：1 0 Y R 7 / 4 にぶい黄橙	繊維混入、白色粒子微量	内面は横方向の擦痕。 外面は縦方向の擦痕。	縄文時代早期
	未図化	深鉢	胴部	内面：1 0 Y R 2 / 1 黒 外面：1 0 Y R 7 / 4 にぶい黄橙	繊維混入、白色粒子やや多い	内面無文。 外面は縦方向の擦痕。	縄文時代早期
	未図化	深鉢	胴部	内面：1 0 Y R 5 / 3 にぶい黄褐 外面：1 0 Y R 3 / 1 黒褐	白色粒子やや多い	内面は横方向の擦痕。 外面は剥落が激しく不明。	縄文時代早期
	未図化	深鉢	胴部	内面：1 0 Y R 4 / 2 灰黄褐 外面：1 0 Y R 5 / 4 にぶい黄褐	繊維混入、白色粒子少量	内面無文。 外面は縦方向の擦痕。	縄文時代早期
	未図化	深鉢	胴部	内面：5 Y R 4 / 4 にぶい赤褐 外面：7 . 5 Y R 5 / 4 にぶい褐	繊維混入、白色粒子微量	内面は剥落が激しく不明。 外面は横方向の擦痕。 円形工具による刺突文。	縄文時代早期
	未図化	深鉢	胴部	内面：1 0 Y R 7 / 6 明黄褐 外面：7 . 5 Y R 6 / 6 橙	繊維混入、白色粒子少量	内面は無文。 外面は横方向の擦痕。	縄文時代早期
S K 1 6 2	未図化	深鉢	胴部	内面：1 0 Y R 7 / 6 明黄褐 外面：7 . 5 Y R 6 / 6 橙	白色粒子少量	内外面無文。	縄文時代早期
S K 1 6 5	未図化	深鉢	胴部	内面：1 0 Y R 4 / 2 灰黄褐 外面：7 . 5 Y R 6 / 6 橙	繊維混入、白色粒子少量	内外面無文。	縄文時代早期
S K 1 6 7	1	深鉢	口縁部	内面：1 0 Y R 5 / 2 灰黄褐 外面：5 Y R 4 / 6 赤褐	繊維混入、白色粒子少量	緩やかに外反する口縁部。 内外面共に横方向の擦痕。	縄文時代早期
一括 (R-23a-57)	1	深鉢	口縁部	内面：1 0 Y R 6 / 4 にぶい黄橙 外面：1 0 Y R 3 / 1 黒褐	繊維混入、白色粒子やや多い	波状口縁。 内外面共に横方向の擦痕。	縄文時代早期
一括 (R-23a-57)	未図化	深鉢	胴部	内面：1 0 Y R 4 / 2 灰黄褐 外面：1 0 Y R 5 / 4 にぶい黄褐	繊維混入、白色粒子少量	内外面無文。	縄文時代早期
一括 (R-23d-14)	未図化	深鉢	胴部	内面：5 Y R 4 / 4 にぶい赤褐 外面：5 Y R 5 / 6 明赤褐	繊維混入、白色粒子少量	内外面無文。	縄文時代早期
一括 (R-23d-58)	未図化	不明	破片	内面：1 0 Y R 6 / 6 明黄褐 外面：5 Y R 4 / 6 赤褐	白色粒子・黒色粒子少量	内面は剥落が激しく不明。 外面赤彩。	弥生時代後期 ～ 古墳時代前期

写真図版



1. 調査区完掘全景（南東→）



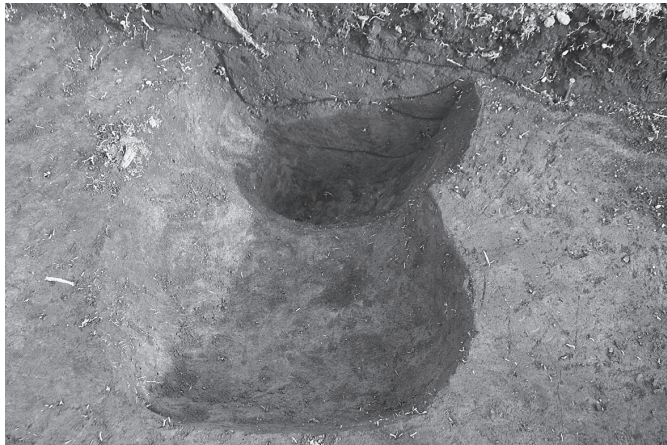
2. S K 159、160 完掘（南→）



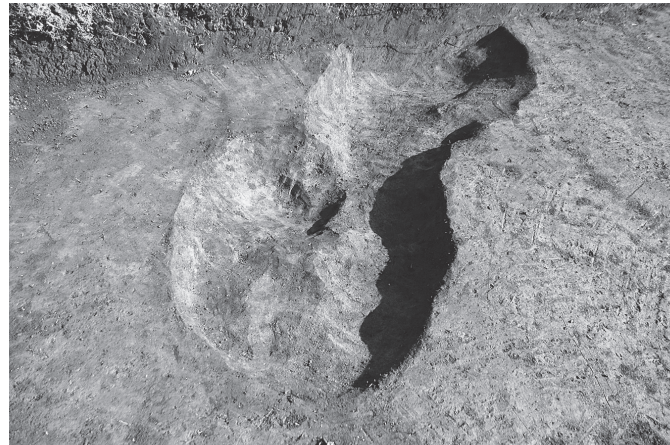
3. S K 161 完掘（西→）



4. S K 162 完掘（南東→）



5. S K 163、164 完掘（南西→）



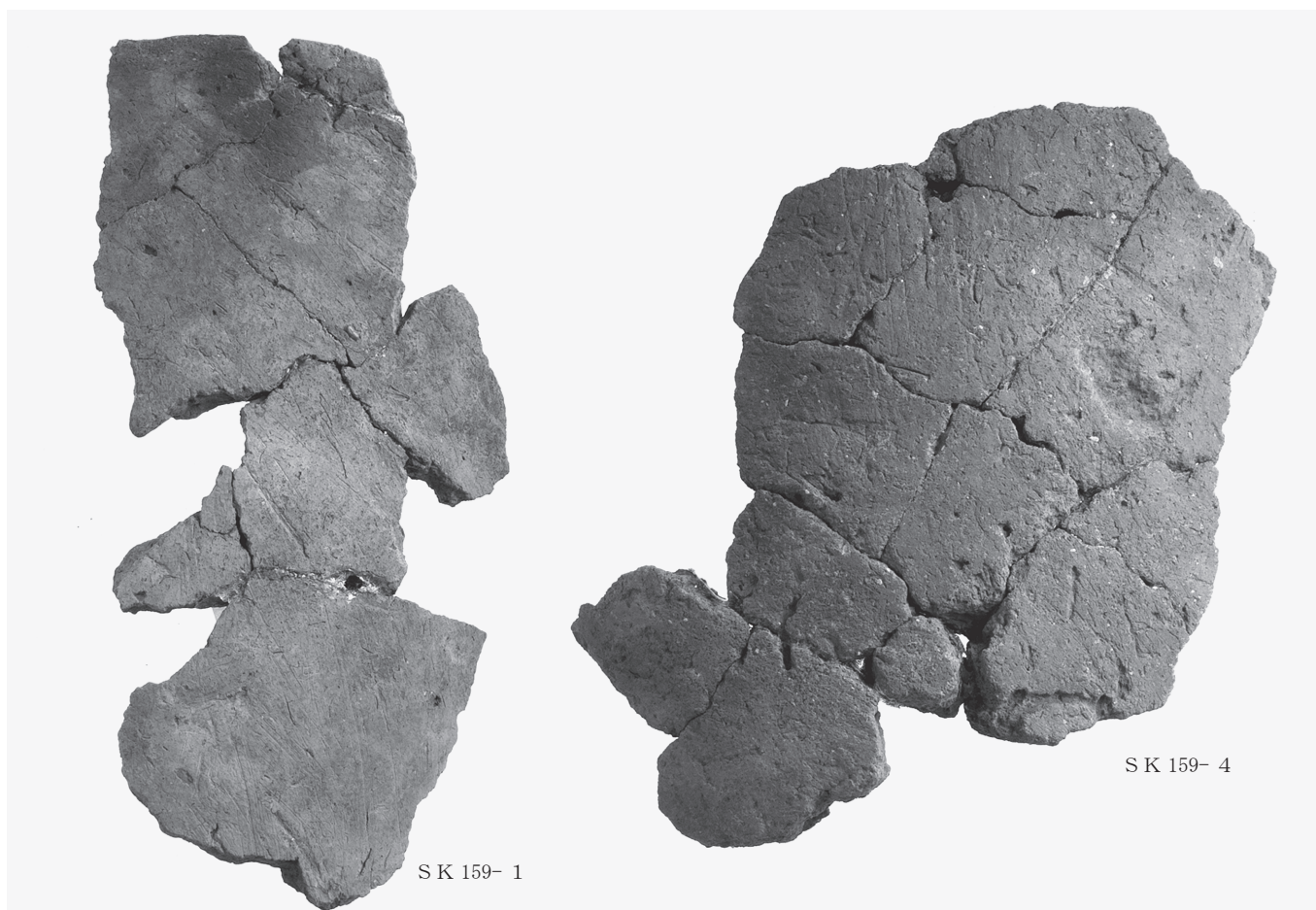
6. S K 165 完掘（西→）



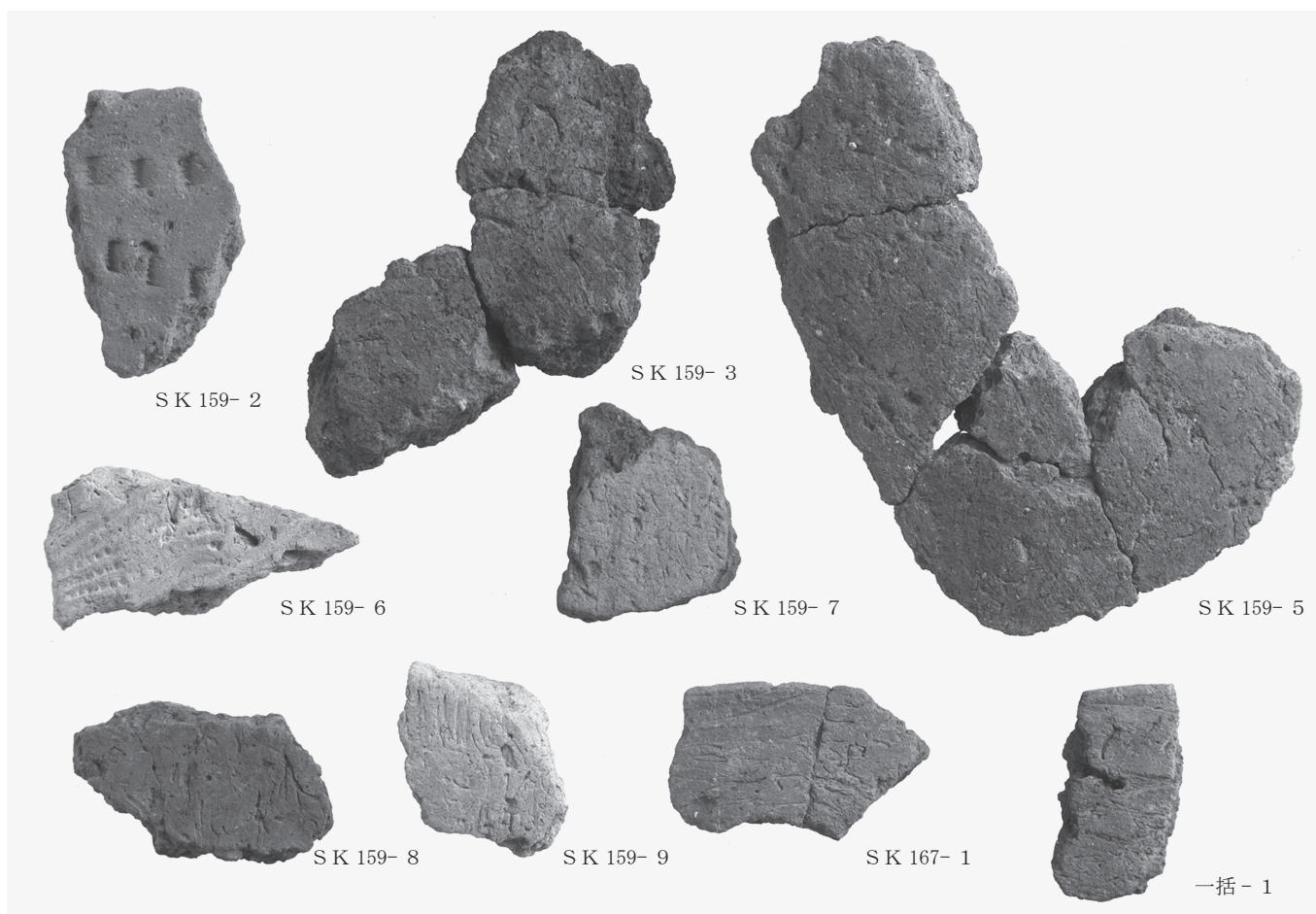
7. S K 166 完掘（南西→）



8. S K 167 遺物出土状況（西→）



1. 出土土器①



2. 出土土器②

報告書抄録

ふりがな		かみおおしろいせき（3）						
書名		上大城遺跡（3）						
副書名		資材置場造成に伴う埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ名		袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号		第 25 集						
編著者名		大河原 務						
編集機関		袖ヶ浦市教育委員会						
所在地		〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1 番地 1 TEL 0438-62-2111						
発行年月日		2016 年 2 月 29 日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
かみおおしろいせき 上大城遺跡（3）	ちばけんそでがうらしくぼた 千葉県袖ヶ浦市久保田 だいじゅくいらいあいら 代宿入会地11 番地 7	12229	SG042	35° 26' 49"	140° 1' 25"	20141202 ～ 20141210	330 ㎡	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項		
上大城遺跡（3）	包蔵地	縄文時代早期		縄文時代 炉穴 4 基、 土坑 5 基	縄文土器	平成 2 年度に調査した道路部分の南西側隣接地で、 縄文時代早期の炉穴・土坑を検出した。		
要約	縄文時代早期子母口式期の炉穴を検出した。平成 2 年度に調査した範囲で検出された弥生時代後期から古墳時代前期の集落の 広がりは見つからなかった。							

2016 年 2 月 24 日 印刷
2016 年 2 月 29 日 発行

袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書第 25 集

千葉県袖ヶ浦市 上大城遺跡（3）

—資材置場造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—

発行 袖ヶ浦市教育委員会
千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1 番地 1
電話 0438-62-2111
印刷 株式会社弘文社
千葉県市川市市川南 2 丁目 7 番 2 号
電話 047-324-5977

